



①



②

①ドローンショーで描き出された大阪・中之島の夜空を舞うミャクミャク(2024年5月14日) 提供：2025年日本国際博覧会協会
②建設工事が進む万博会場(2024年5月20日撮影) 提供：2025年日本国際博覧会協会、大林組 撮影：伸和

くるぞ、万博！ ～会場コンテンツも続々決定～

開幕まで300日を切った2025年日本国際博覧会(大阪・関西万博)。

夢洲では会場の建設工事が着々と進み、シンボルとなる「大屋根リング」に加え、一部のパビリオン、各種施設がその姿を現し始めている。

一方、各パビリオンの展示や、万博のコンセプト「未来社会の実験場」を具現化する「未来社会ショーケース事業」についても内容の詰めの検討や準備が進められている。さらに、会期中の催事スケジュールも順次発表され、と、万博で体験できるコンテンツが徐々に明らかになるにつれ、期待も高まるばかりである。

今号では、関経連会員企業の機運醸成・出展に関する取り組みを中心に、開幕に向け着実に準備が進む万博の現状を紹介する。

開幕に向け、順調に進む準備

必ずや成功を！ オールジャパンで推進

大阪・関西万博の開幕1年前である2024年4月13日には東京で、4月17日には大阪で記念イベントが開催された。東京のイベントでは、岸田文雄内閣総理大臣がビデオメッセージで「自治体、経済界、政府等、関係者が一丸となりオールジャパンで準備を進め、未来を切り開く万博を共に作り上げ、必ずや成功に導いていこう」と呼びかけた。万博のテーマ「いのち輝く未来社会のデザイン」をパビリオンで表現する8名のテーマ事業プロデューサーが登場したクロストークでは、各プロデューサーがパビリオンに込めた思いや展示イメージ、準備状況などが紹介された。さらに、万



記念イベント(東京)でのスタッフユニフォーム披露
提供：2025年日本国際博覧会協会

博会場でスタッフが着用する「公式ユニフォーム」のお披露目も行われた。

大阪のイベントには、松本正義 関西連会長や吉村洋文 大阪府知事、横山英幸 大阪市長のほか、「大阪ヘルスケアパビリオン」参画企業などが参加。万博の魅力を大いにアピールした。

また、本年1月から4月にかけて2025年日本国際博覧会協会(以下、博覧会協会)と大阪府・市が共同で実施した、万博会場内外で活動するボランティアの募集には、目標の2万人を大きく上回る5万5,000人超の応募があり、人々の関心の高さが感じられる結果となった。

着々と進む建設工事

会場の工事も着々と進んでいる。シンボルとなる「大屋根リング」は本年9月に組み立て完了予定で、ほかにも全貌に近い姿を目にすることができるパビリオン・施設も増えてきている。

今回の万博に参加を表明している161カ国・地域、9国際機関のうち、51カ国は独自にパビリオンを建設する「タイプA」方式での出展を予定しており、うち40カ国については、施工事業者が決まり順次着工していく(6月19日時点)。施工事業者が未定の国についても、博覧会協会と政府が連携し、できる限り各国の希望に沿う形での出展が実現するよう、精力的にサポートを続けている。

機運醸成活動進行中!!

各企業が工夫を凝らした機運醸成活動を展開

万博の成功に向け会場整備と同様に重要なのが、国内外の盛り上がりを生み出す「機運醸成活動」である。すでに多くの企業にさまざまな形で協力いただいております、当会会員企業の皆さまにも工夫を凝らした取り組みを進めていただいている。以下にその一例を紹介する。

車両などのラッピング

西日本旅客鉄道(JR西日本)では、本年4月より東海道・山陽・九州、北陸の各新幹線で「大阪・関西万博ラッピング新幹線」の運行を開始(万博閉幕まで運行予定)。また、阪急電鉄、阪神電気鉄道、近畿日本鉄道、南海電気鉄道、京阪電気鉄道、大阪市高速電気軌道(Osaka Metro)などでもラッピング列車が運行されており、関西各地でさまざまなデザインの車両が日々万博のPRに一役買っている。



万博ラッピングされた新幹線
提供：西日本旅客鉄道

レngoでは、関西・関東・中部エリアを走る自社グループのトラック45台に万博ラッピングを実施。来年9月ごろまで運行予定となっている。



レngoロジスティクスが運行中のラッピングトラック
提供：レngo



テレビコマーシャル(CM)

関西電力やクボタなど、自社のテレビCMに万博ロゴを掲示する万博出展企業や応援企業も。こうした取り組みにより、メディアへの露出の機会も増えている。



関西電力のテレビCMの冒頭に登場する万博ロゴ 提供：関西電力

オフィシャルグッズによるPR

万博のオフィシャルグッズが購入できる「2025大阪・関西万博オフィシャルストア」も全国12店舗に拡大、関西圏だけでなく北海道や九州にもオープンしている。今後、全国各地の小売店での商品展開やポップアップショップ開設の計画もあり、関西以外の地域で手軽にグッズが手に入る環境を整えることで、全国的に機運醸成の輪を広げていく。



北海道のオフィシャルストア開店セレモニー 提供：2025大阪・関西万博マスターライセンスオフィス

9月～11月には重点的なPRを実施

こうした動きに加え、全国的な機運醸成活動を官民一体で進めるために2023年4月に博覧会協会が設置した「機運醸成委員会」(委員長：松本博覧会協会副会長(当会会長))でも取り組みを強化する。

昨年12月に大阪府・市が行った調査では、万博の全国的な認知度は上昇傾向にある一方、来場意向度は低下傾向であるという結果が出た。そこで、状況を好転させる一策として、同委員会では本年4月に開催した総会にて新たに「機運醸成行動計画ver.2」を策定し、開幕までの期間に取り組む広報・プロモーション活動の方向性を打ち出した。

計画では4つの大きな取り組みの方向性ととも、具体的な取り組みについては、「こども・若者層」「シニア層」「インバウンド層」等、ターゲットごとにより効果を見込めるものに変えながら実施していくことが示されている。また、開幕半年前に当たる本年9月～11月と、開幕直前・直後となる来年3月～5月を「PR重点期間」とし、その期間に重点的に活動を展開することも明記されている(表1)。

当会もこの計画に基づき、主体的に機運醸成活動に取り組み、その強化をはかっていく。

表1「機運醸成行動計画ver.2」の概要

PR重点期間

第2期 2024年9月～11月

第3期 2025年3月～5月

*第1期は2023年10月～12月に実施済。

取り組みの方向性

- ①フェーズやターゲットに合わせた汎用コンテンツや販促ツールの制作
- ②SNS発信体制の構築・強化
- ③各地域の取り組みの巻き込みによる機運醸成
- ④インバウンド向けPRの拡大

※行動計画の全文は博覧会協会ホームページに掲載

<https://www.expo2025.or.jp/news/news-20240404-01/>

万博会場では何が体験できる？

そして、気になる万博会場内で来場者が体験できるコンテンツについても少しずつ明らかになってきている。まだまだ「今後のお楽しみ」の部分が多いが、当会会員に関連した事案についていくつか紹介する。

壮大なテーマにワクワク！—民間パビリオン—

万博のテーマ「いのち輝く未来社会のデザイン」に即して、国内の13の企業・団体がパビリオンを出展する予定となっている。

住友館 出展：住友EXPO2025推進委員会(住友グループ19社で構成)

さあ、森から始まる未来へ

住友館は、住友が400年にわたり大切にしてきた「森」をテーマに出展。展示では来場者は専用デバイス「ランタン」と共に、音や映像・光などを用いたさまざまなインタラクティブ体験が待ち受ける森“UNKNOWN FOREST”の中をめぐり、いのちの物語に会う。また、次世代を担う子どもたちを中心に来場者参加型の“植林体験”を実施し、2025年から時を超えて、未来へと豊かな森を受け継ぐ取り組みも実施される。



提供：住友 EXPO2025 推進委員会(イメージ2点とも)

住友館の外観は、住友の発展の礎である四国“別子の嶺”から着想を得て、山々が連続するシルエットを表現したデザインに。先人から受け継いできた“住友の森”の木々を、1本1本余すことなく活用する建築技法を用いて建設されている。

URL：<https://sumitomoexpo.com/>

三菱未来館 出展：三菱大阪・関西万博総合委員会(三菱グループ30社で構成)

いのち輝く地球を未来に繋ぐ ~Keeping the World Vibrant~



提供：三菱大阪・関西万博総合委員会事務局

三菱グループでは、1970年大阪万博、2005年愛・地球博とつないできた「未来館」という名称を今回の大阪・関西万博でも継承。この名に託した新たな想いを伝える展示が検討されている。

三菱未来館は地上2階・地下1階のパビリオンで、長方形を人間、ひし形を地球、楕円を生命に見立てた幾何学的な図形を設計コンセプトに採用。「地上に浮かぶマザーシップ」をイメージしたユニークなデザインのパビリオンが現在建設されている。

いのち輝く地球を未来に繋ぐ~Keeping the World Vibrant~をコンセプトに、三菱未来館で繰り広げられるのは、「未知なる深海から遙かなる宇宙へ、いのちを巡る壮大な旅」。

地下空間を有する特徴を生かし、地下空間からパビリオン館内をめぐりながら、「いのち」にまつわるさまざまな想いや不思議を感じられる、リアルでは体験できないような時空を超えた旅が展開される。

URL：<https://www.mitsubishi.com/ja/expo2025/>



どんな未来が見える?? — 未来社会ショーケース事業 —

万博会場を未来社会のショーケースに見立て、最先端の技術やサービスを万博の運営・展示・催事などに活用することで、来場者にこれまでにない未来社会の体験を提供する「未来社会ショーケース事業」。スマートモビリティ万博・デジタル万博・バーチャル万博・アート万博・グリーン万博・フューチャーライフ万博の6領域で準備が進められている。

このうち、当会会員等も参画している事業を一例として紹介する。

フューチャーライフ万博・未来の都市

博覧会協会と協賛12者が共同出展する万博会場最大級のパビリオン「フューチャーライフ万博・未来の都市」で展開されるのは、だれ一人取り残すことなく、一人ひとりが“幸せ”をかなえるために人類が共通してめざすべき舞台としての「未来の都市」。そこで提示された複数の視点に対し、協賛12者がそれぞれの知恵・発想、最先端技術を生かした「体験プログラム」が提供される。

協賛企業の一つ、クボタが来場者に見せるのは、「食と農の未来」。最先端技術を駆使した生産インベーションやデジタルソリューションを通じて持続可能でレジリエントな食と農が提案される。



パビリオン外観イメージ 提供：2025年日本国際博覧会協会
画像はイメージです

同じく協賛企業である川崎重工業は、水素をエネルギーとする持続可能なモビリティを展示。「ひと、もの、こころを動かす」Kawasakiらしいモビリティを通じて、次の社会へ大きな希望を抱けるような展示が検討されている。

担当者から
ひとこと
クボタ

ご来場いただいた皆さまとともに未来の食と農を考え、より良い方向へ変えていくきっかけの場にしたいと思っています。
ぜひお立ち寄りください！

担当者から
ひとこと
川崎重工業

当社グループの企業ミュージアム「カワサキワールド」のように、実寸大の未来モビリティを見て・触れて・楽しんでいただける場にします。
どうぞお楽しみに！

スマートモビリティ万博・空飛ぶクルマ

ANAホールディングス、日本航空、丸紅、SkyDriveなどが協賛する「空飛ぶクルマ」の運航では、会場内ポートと会場外ポートをつなぐ2地点間運航の実現をめざし準備が進められている。

会場内北西部に位置する「モビリティエキスペリエンス」では、会場内ポートの運営に協賛するオリックスによりポートの設置・運営の準備が進められている。

担当者から
ひとこと
オリックス

オリックスは、SDGsに資する次世代モビリティである「空飛ぶクルマ」の社会実装に貢献したいという考えに基づき、ポート運営に協賛しています。
万博を通して空の移動をもっと日常に近いものを感じていただけるよう、手触り感のある未来を体感いただける機会を提供したいと考えています。

万博会場をさらに盛り上げる催事 その日程も順次明らかに

万博の会期中には、公式参加国や国内の自治体、民間企業・団体等が主催する多彩な催事が連日開催され、会場をさらに盛り上げる。この催事のス

ケジュールも順次公表されてきている(P.7表2)。

公式参加者(各国・地域、国際機関)の参加を称えること、そしてその文化に対する理解を深め、国際親善の増進に寄与することを目的とした「ナショナルデー(国・地域)」および「スペシャルデー(国際機関)」では、国内外の賓客を招いて行う式典や、文化イベント等が行われる。

自治体が実施するのは、地域の文化や食、ユニークな強みをアピールする催事。開催を予定している自治体の一つ、福島県では、東日本大震災からの復興に取り組む「福島の今」を見て、その想いを聞き、自分事として考える、“学べる旅行”「ホープツーリズム」や農林水産物・県産品の魅力を伝える出展などを検討している。担当者は「復興が進む姿やたくさんの魅力、これまでの支援に対する感謝の思い『ありがとう』を国内外に発信する機会としたい」とその想いを語っている。

催事に関しては、国内外の著名なアーティストによるイベントや舞台、講演等の開催も予定されており、今後随時スケジュールが公表される。

万博と連携する 広域プロジェクトも始動

“万博で国内外から多くの人が集まるせっかくの機会、さまざまな関西の魅力を知ってもらおう”と、万博と連携する広域プロジェクトへの取り組みも始まっている。

関西文化学術研究都市(けいはんな学研都市)では、立地する研究機関等が持つ技術の展示などを行う「けいはんな万博」を万博と連動して開催予定。本年6月3日には、シンポジウムと技術展示を柱とするキックオフイベントをグランフロント大阪にて開催し、一足早く万博の雰囲気を感じ

られる場を提供した。

関西2府8県4政令市、交通・旅行会社、関西広域連合、当会等が昨年3月に設立した「EXPO 2025関西観光推進協議会」(事務局：関西観光本部)では、海外からの万博来場者を関西一円に誘客すべく、観光コンテンツ集の制作、旅行商品の造成やプロモーション等を進めている。情報をまとめた「万博プラス関西観光特集」を、関西観光本部が運営するウェブサイト「The KANSAI Guide」内に開設。検索・絞り込み機能も備え、旅行者のさまざまなニーズに対応できる仕様となっている。



「The KANSAI Guide」トップページ 提供：関西観光本部

*「万博プラス関西観光特集」

<https://www.the-kansai-guide.com/ja/expo2025-plus/>

開幕まで残り300日を切り、だんだんと姿が見えてきた万博。当会では、会員企業の皆さまに万博という好機を最大限活用いただけるよう、今後もきめ細やかで役に立つ情報発信・提供を行っていく。万博の成功に向け、引き続き皆さまのご協力をお願いしたい。(万博推進部 入江碧)

表2 万博で開催される催事例(2024年6月20日時点、今後順次追加)

開催日	主催	催事内容
公式参加国		
5月2日	フランス共和国	女性デー
8月31日	モルドバ共和国	ホラ・フラッシュモブ
9月17~18日	リベリア共和国	音楽コンサートと文化パフォーマンス
自治体		
5月2~3日	徳島県	多様性が織りなす踊りの輪 徳島の阿波おどり
6月14~15日	東北六県、東北絆まつり実行委員会、東北観光推進機構	東北絆まつりのパレード・展示イベント等
7月1日	鳥取県	今日は一日鳥取県~まんが王国ととりの魅力~
7月19日	福島県	タイトル調整中
民間企業・団体		
5月10日	電気事業連合会	タイトル・内容調整中
5月24~25日	日本電信電話	日本伝統芸能×NTT IOWNテクノロジー(仮)
7月31日	三菱大阪・関西万博総合委員会	三菱パビリオンデー
8月1日	住友館	タイトル・内容調整中
8月7日	パナソニックグループ	パナソニックグループ「ノモの国」パビリオンデー(仮称)



上：EXPO ナショナルデーホール「レイガーデン」内観イメージ
下：EXPO ホール「シャインハット」内観イメージ

提供：2025年日本国際博覧会協会